

JCMU newsletter

ミシガン州立大学連合日本センター
The Japan Center for Michigan Universities

No. 44
2007 秋

Director's Report

Paul B Reagan

Director of The Japan Center for Michigan Universities

ポール B レーガン

ミシガン州立大学連合日本センター所長

The Summer 2007 Intensive Japanese Language Program has just come to a close. There were nearly sixty students this year taking courses at various levels of Japanese, English, and in JCMU's Environmental Science in Japan Program. In addition to their studies, the students were able to take advantage of summer holidays and travel to various areas of Japan. Several climbed Mt. Fuji while others visited Tokyo, Kyoto, Kobe, Osaka, Takayama, and Nara.

The students had unique opportunities this summer too, such as visiting the Togeji no Mori in Shigaraki and actually studying under the direction of Mr. Tamura ceramicist and Director of the Shigaraki Association of Potters.

There will be an exciting series of Open Lectures scheduled for the Fall. We will have professors, specialists and MBA students presenting lectures in various aspects of marketing, history, and finance. These lectures are open to all and we warmly welcome the Hikone community to join us.



2007年夏の集中講座も間もなく終了します。今年は60人近くの学生が、様々なレベルの日本語、英語、更には環境科学のプログラムを受講しました。勉強に加えて、学生たちは夏休みを利用して日本の色々な地域に旅行しました。富士山に登った者もあり、東京、京都、神戸、大阪、高山、それから奈良を訪れた者もいました。

今年の夏も学生たちは他では経験できない機会を得ました。例えば、信楽の陶芸の森へ行って信楽工業組合の理事長であり陶芸家でもある田村氏に指導をいただいて学ぶことができました。

秋には興味深い内容の公開講座を開きます。教授、専門家、経営修士コースの学生にマーケティングや歴史や金融などの幅広い分野の講演をしていただく予定です。これらの講演は誰でも参加できます。広く地域の方々に参加していただければ心から歓迎します。

JCMU所長のワンポイント講座 (No. 1)



皆さんは、阿部次郎をご存知でしょうか。明治から昭和の戦前に生きた学者であり詩人であり教育者です。20世紀の古典的作品と評される「三太郎の日記」は、彼の代表作です。阿部の著作には、自己と世界の本質を理解しようと葛藤し、苦悩する若者が登場します。そして、「人生いかに生きべきか」というテーマに取り組みます。夏目漱石や和辻哲郎や西田幾多郎ら幾人かの同時代人と同様、阿部は社会制度はもとより、道徳、歴史、文学や伝統に対して人々が持っている無批判な態度という束縛からも解放しようとしていました。彼の著作を読むと、戦前の日本のヒューマニズムの精神がよく表れています。そして、日本の近代文化の奥深さを理解することができます。

(れ)

～留学生のホームステイ体験記～

JCMU で学ぶ留学生の多くは付属寮で生活していますが、日本の文化を肌で感じ、交流をするには、ホームステイをするのが近道です。今年の夏の日本語・日本文化集中コース等を履修した 59 名の留学生のうち、15 人が約 2 ヶ月間の長期ホームステイを、また 13 名が週末の短期ホームステイを体験しました。今回は、ホームステイの体験談をお届けします。

オリビア・ルーカスさん



ホームステイをして、初めのうちは少し戸惑うこともありましたが、今はとても楽しくて、とてもいい経験になったと思っています。ホストファミリーはとても親切な人達で、私を奈良や宇治に連れていってくれました。ホストファミリーには 2 歳と 3 歳の子が居て、一緒に絵本を読んで楽しんだこともありました。日本とアメリカの習慣の違いにもすっかり慣れました。日本では食事のときなどいつも家族が一緒なんですね。同じ皿の上のものをみんなで分け合って食べることに驚きました。ホームステイをしたお蔭で日本語を話すチャンスができて、日本語が上達しました。

ホストファミリーの M さんより

とても楽しい時間を過ごすことができました。あっという間でした。子供も“オリビア、オリビア”と言って仲良くしていました。

ホストファミリーはとても温かく親切な人達でした。休日には日本海を見に連れて行ってくれました。本当に美しかったです。日本とアメリカとの生活や文化の違いには良い意味で驚かされました。魚や豆腐や味噌汁など、日本の食事はアメリカと比べてとても健康的で、私は大好きです。日本人は、ごはんには醤油をかけないということは初めて知りました。自転車と電車での通学は遠距離でしたが、よい運動になりました。最後の日には、大勢が集まって、庭でバーベキューをしてくれました。アメリカの大学を卒業したら、もう一度日本に戻ってきたい、と思っています。

マーク・レインさん



ホストファミリーの中川さんより

アマチュアバンドをやっているマークには、プロデビューを期待しています。日本を忘れるなよ。

クリス・ボイトビッチさん



Coming to Japan I was both excited and nervous to spend two months living in a country that I have never been to before.

As it turned out, though, I was very fortunate to have been chosen by a family that I got along with easily; with a bright, ten year-old son, a beautiful, good-at-cooking mother, and a talkative, who-may-be-a-better-cook-than-mother father.

Among the entire time I have lived with the host family, I definitely will remember the fun we had climbing the mountain behind the house as well as re-climbing half of it to find the keys lost by the son that have been engulfed by the bamboo forest.

But on top of it all, what I will miss most is the time we spend together at the dinner

table. Those are the times that we have spent talking about anything that crosses our mind. Among those conversations over dessert, tea, or even sake, I will remember especially those topics that just came out of nowhere - from fake marriages to economy to the regions in the world in which we think the most beautiful people live in - I loved them all.

My biggest regret of this trip is that it lasted only this long; I wish I had more time to spend with the family and visit more places in Japan. But even more than that, I'd like to thank the JCMU Staff for finding such a lovely family, and the family for not only taking me into their home, but also for bearing with me until now, and for even willing to save me when I was stranded in the train with no cash to pay for the tickets.

ホストファミリーの寺村さんより

夕食の前後にニュースやドラマやトークショーなどを一緒に見ながら、番組に出てきた単語や事柄について色々質問を受けたりして、気がつく幅広く様々なトピックスについて話ができ、お互い日本語と英語の勉強になりました。

クリスさんは、JCMUの図書館から子供用の本を借りてきては息子に聞かせてくれたりして息子も大喜びでした。

JCMU スタッフより

ホストファミリーを引き受けていただいた皆様、本当にありがとうございました。

サマープログラムが終了した後、約2ヶ月間、学生を受け入れてくださったホストファミリーの方々との意見交換会を持ちました。うれしかったこと、困ったことなど話はずきませんでした。その中で、10年以上にわたってホームステイを引き受けてくださっている方から、「以前のホストファミリーの懇談会では、学生にああしてやった、どこそこに連れて行ってやった、などの話が多かったが、今日は、学生が助けを求めたら手伝う、というのが普通に聞こえた。」というお話がありました。これは、リピーターの方々の「秘訣」かもしれません。それぞれの家庭の事情に合った無理のない受け入れをしていただければ、アメリカ人学生のもたらす違う文化を楽しんでいただけるのではないのでしょうか。



修了式後の懇親会

ホストファミリー募集のお知らせ

当センターでは、アメリカ・ミシガン州を中心に、全米の大学から来日している留学生のホストファミリーを随時募集しています。留学生たちは、日本語や日本の文化に興味を持っており、日本の家庭で生活しながら皆様とふれあう機会を求めています。ひとりでも多くの留学生がホームステイの体験をできるようにご協力いただければ幸いです。

長期ホームステイの場合は、当センターまでの通学所要時間が1時間程度の範囲のご家庭であること、1ヶ月以上受け入れていただくことなどの条件がございます。

また、長期ホームステイとは別に短期ホームステイのホストファミリーも募集しています。こちらは普段は付属寮で生活している留学生が特定の週末にホームステイをするというものです。

詳しくは当センターまでお問い合わせください。



《信楽見学 週末フィールドトリップ》

日本六古窯の1つに数えられる信楽焼の歴史は、聖武天皇が紫香楽宮の建設に着手した天平14年(西暦742年)に遡ると言われ、今日では国から伝統的工芸品に指定され、滋賀県を代表する伝統産業の1つとなっています。甲賀市信楽町勅旨にある陶芸の森を訪れた11名の留学生たちは、信楽焼きのタヌキとポーズをとったり、登り窯の中を覗きこんだり、また、芸術家の作品を熱心に鑑賞したり、お土産の品定めをしたり。陶芸の森でたっぷり信楽焼について勉強した後は、実際に陶器づくり体験。オーソドックスな器から、個性あふれる芸術作品まで各々が思い思いに世界に1つしかない作品を制作しました。帰り道には、紫香楽宮跡を訪れました。現在300余りの礎石が残っており、往時が偲ばれます。新緑の山々を見ながら帰路につきました。



陶芸の森の太陽の広場を背景にして

夏の思い出

そういえば、夏休みだ。通勤電車の中で学生や制服姿の生徒の減ったことで夏休みを感じた。

懐かしい風物詩は、ラジオ体操、朝顔、水泳、すいか、昆虫採集、押し花、地藏盆、夕立、夜店、盆踊り、キャンプ、肝だめし、花火、そして最後まで残った宿題…。それらの言葉と一緒に夏が蘇ってくる。

今は各地で大きな花火大会も行われているが、線香花火のやさしい光とほのかな煙のおいも懐かしい。「線香花火」を調べてみると全ては解明されていない神秘に満ちた花火だとされている。そして、原料はとってもシンプルなのに、きれいに咲く線香花火にはなかなかの技術が必要とのこと。

また、日本国内では、一時は、わずかに生産されているだけだったのが、最近では国産品が各地で生産されるようになったとされていた。

日暮に「カナカナ」と蝸が鳴いて、最後に残っていた花火にそっと火を付け、ポトンとオレンジ色の玉が落ちると今年の夏が行ってしまった。(く)



2007年度 行事予定

- 9 / 18 火 英語プログラム(秋季)開講
- 10 / 21 日 第58回公開講座
- 10 / 26 金 ハロウィーンパーティー
- 11 / 23 金祝 第59回公開講座
- 12 / 14 金 日本語プログラム修了式
- 1 / 7 月 英語プログラム(冬季)開講

《冬季英語プログラムご案内》

開講期間 2008年1月7日(月)~3月21日(金)

場所: ミシガン州立大学連合日本センター
(彦根市松原町(彦根プリンスホテル南隣))

英語集中コース 月~金 10:00~12:00 13:10~15:10
留学・進学・転職・自己啓発のための英語総合力アップを図るコースです。午前中のみ受講できるモーニングコースもあります。

* アメリカからの留学生向け付属寮にルームメイトとして入寮できます。

スキル・テーマ別コース 週1~2回 10:00~12:00 13:10~15:10
あなたの目的・時間にあわせて、「スピーキング・リスニング」、「アメリカ・オン・ビデオ」、「マルチスキル」等の実力アップを図るためのコースがあります。

夜間コース 月・木 週2回 19:00~20:30
実用英会話ブラッシュアップのための夜間コースです。

申込締切 2007年12月14日(金)

大津コースのご案内

開講期間: 2008年1月9日(水)~3月19日(水)

大津マルチスキル 毎週水曜日 14:00~16:00

大津夜間コース 毎週水曜日 19:00~20:30

場所: ピアザ淡海(大津市におの浜一丁目)
(びわ湖ホール東隣)

申込締切: 2007年12月18日(火)

ミシガン州立大学連合
日本センター

〒522-0002

滋賀県彦根市松原町網代口1435 86

TEL 0749 26 3400 FAX 0749 24 9356

http://www.jcmu.net

編集・発行 (財)滋賀県国際協会 彦根事務所